

家計簿との違い

生活をしていると、日々、必ずお金やものの出入りがあります。例えば、スーパーの食品売り場で、今晚のおかずにお肉と野菜を買って、その代金として現金1,000円を支払ったとします。このとき、現金1,000円を使ったので、現金が1,000円減ったということだけで済ませていませんか。また、この代金をクレジットカードで支払った場合、どのように考えますか。

ここで、もし、あなたが、家庭生活におけるお金やものの出入りが、家庭の財産にどのような影響を与えるのかを理解していれば、お肉と野菜を購入した代金の支払方法によって、家庭の財産に与える違いを予測することができます。

従来、お金やものの出入りを記録するための方法として、お小遣い帳や家計簿が利用されてきました。しかし、経済が発達し、現金だけでなく、電子マネーやクレジットカードによる取引とかインターネットによる取引など取引が複雑になった現在、いままでのような、お小遣い帳や家計簿では対応が難しくなっていました。

そこで、この変化に対応したお金やものの出入りを記録するための方法として「家庭簿記」を考えました。

「家庭簿記」とは「家庭用複式簿記」のことで、会社が行っている複式簿記を、家庭で楽に有効に行えるようにしたものです。

では、なぜ、いま、「家庭に複式簿記」が必要なのでしょう？
それは、複式簿記が人間の経験と知恵によって作られた最高傑作のひとつであり、いまこそ、家庭において複式簿記を大いに活用して、幸せをつかむべき時代になったからです。

例えば、昨日のあなたの全財産が、現金だけで5,000円だったとします。

今日、スーパーへ行き、お肉と野菜を買い、その代金として現金1,000円を支払ったとします。

この場合、お小遣い帳や家計簿だとお肉と野菜の食料費に現金1,000円を使ったので、現金が1,000円減ったという処理をします。

これを家計簿では、次のように表示します。

現金（昨日の残高）	5,000円
<u>現金支出（食料費）</u>	<u>－1,000円</u>
現金（今日の残高）	4,000円

一方、この買い物を、家庭簿記（家庭用複式簿記）では、次のように考えます。

お肉と野菜を購入し食料費が1,000円増加したという一面と、現金が1,000円減少したという一面に分けて考えます。

また、お肉と野菜の代金を、現金ではなくクレジットカードで支払った場合、家計簿では、現金の支出が無いので、何も処理をしないか、現金で支払ったように記帳するのが一般的です。クレジットカードで支払っても現金で支払ったように記帳した場合、家計簿に記帳されている現金残高と実際にお財布の中に残っている現金残高との間に差額が生じます。一方、家庭簿記では、次のように表します。

(1) 昨日の家庭決算書

昨日の財産対照表

左方（ひだりかた）	右方（みぎかた）
資 産	負 債 0 円
（現 金） 5,000 円	正味財産 5,000 円
合 計 5,000 円	合 計 5,000 円

(2) 今日の家庭決算書

今日の財産対照表

左方（ひだりかた）	右方（みぎかた）
資産	負 債
（現 金） 5,000 円	（カード未払金） 1,000 円
	正味財産 4,000 円
合 計 5,000 円	合 計 5,000 円

今日の消費損益計算書

収 入	0 円
消 費（食料費）	— 1,000 円
当期消費損益	— 1,000 円

今日の消費損益計算書は、現金で支払った場合と変わりませんが、財産対照表はクレジットカードで支払ったので、現金の残高は5,000円と変わりませんが、カード未払金という負債が1,000円発生し、正味財産は4,000円になります。

このように、家庭簿記（家庭用複式簿記）を使い、家庭生活におけるお金やものの出入りを記録して、家庭の財産の状況や消費損益を明らかにするための報告書（家庭決算書）を作れば、財産が増えたのか減ったのか良く分かり、もっと財産を増やすためには、そして、将来の夢を実現するためには、どこをどうやって工夫すればよいのかという、計画を立てるのに役立ちます。

健全な家庭を築き、維持、向上、発展させていくための有効な方法が、家庭経営に家庭決算書を活用することだと思います。